

目

次

歴史編 上・民俗編

例 口
言 絵

歴史編 上**第一章 原始時代**

第一節 原始時代	1
一 先土器時代	3
第二節 繩文時代	3
一 繩文時代の概観	4
二 穂高町の繩文遺跡	8
三 繩文時代の人々の生活	24
第三節 弥生時代	28
一 弥生時代の概観	28

第二章 古代

二 穂高町の弥生遺跡	29
三 弥生時代の人々の生活	32

第一章 原始時代	1
第二節 古代信濃国安曇郡の成立	35
一 穂高の神と海人族安曇氏（族）	37
二 海人族の本拠	37
三 玄海海人族の東漸	39
四 安曇氏（族）の信濃への入国路	41
五 中央における安曇氏	43
第六節 安曇郡の成立	45

一 穂高の神と海人族安曇氏（族）	37
二 海人族の本拠	37
三 玄海海人族の東漸	39
四 安曇氏（族）の信濃への入国路	41
五 中央における安曇氏	43
第六節 安曇郡の成立	45

第二節 猪鹿牧	49
一 古代の牧場	52
二 猪鹿牧	49
第三節 古墳時代	57
一 古墳時代の概観	57
二 古墳時代の集落遺跡	60
三 穂高町の古墳と出土遺物	66
四 穂高町の古墳時代様相	95
第四節 用水路からみた穂高の集落の発達	100
一 烏川扇状地の旧東穂高村・旧西穂高村の開発	107
二 中房川扇状地の旧有明村の開発	100
三 高瀬川・乳房川（穂高川）複合扇状地の 旧北穂高村の開発	111
第五節 庄園の成立と展開	113
一 野原庄（矢原御厨）	113
二 野原庄（矢原御厨）と細萱氏	119
三 矢原庄の領域	123
四 平安時代の遺跡と出土品	129

第三章 中世

第一節 武士の発展

一 細萱氏	143
二 古厩氏	152
三 等々力氏	177
四 穂高氏	183
五 その他の氏	186
第二節 穂高町の神社	194
一 穂高神社	194
二 有明山神社	205
第三節 穂高町の寺院	213
一 真言宗の寺院	213
1 栗尾山満願寺（213）	2
2 五竜山明王院正福寺（225）	2
3 鶴王山松尾寺（230）	4
4 牛流山真龍院（233）	4
二 曹洞宗の寺院	236
1 海林山正真院（236）	2
2 安養山青原寺（241）	2

3 穂高山宗徳寺(244)	4 吉祥山東光寺(248)	三 養 蚕
第一節 総 説		四 その他諸作物の栽培
第二節 戸 口	255	第七節 天蚕・柞蚕
一 人口の推移	255	一 有明における天蚕の歴史
二 宗門人別改め	257	二 糸魚川街道
第三節 檢地と税制	260	二 栗尾道と『続膝栗毛』
一 檢 地	260	第九節 商品流通と運輸
二 租 稅	264	一 穂高宿の成立
三 地租改正	271	二 伝馬制から中馬制へ
第四節 用水堰と新田開発	276	三 小川家と中牛馬分会社
一 穂高諸村の新田開発	276	四 犀川通運と拾ヶ堰通船
二 矢原堰と白井弥三郎	279	第十節 災害と騒動
三 拾ヶ堰と等々力孫一郎たち	281	一 災 害
第五節 農 業	285	二 騒 動
一 農民と土地所有	285	
二 稲・雑穀の栽培	285	
第六節 林 業	291	第十一節 教育と文化
第七節 天蚕・柞蚕	296	一 穂高町の寺子屋と私塾
第八節 交 通	298	二
第九節 商品流通と運輸	308	
一 糸魚川街道	308	
二 栗尾道と『続膝栗毛』	310	
第十節 災害と騒動	314	
一 災 害	314	
二 騒 動	320	
	321	
第十一節 教育と文化	326	
一 穂高町の寺子屋と私塾	329	

二 穂高町の農村歌舞伎

第五章 村 落 史

七 白金村
八 矢原村
九 柏原村
十 牧村・草深村
十一 柏矢町

334

第一節 松川組の村々

一 旧古厩郷	341
二 古厩村	341
三 耳塚村	341
四 新屋村	341
五 南原村	341
六 嵩下村	341
七 小岩岳	341
八 富田新田村	341
九 立足村	341
十 豊里	341

第二節 保(穂)高組の村々

一 橋爪村	426
二 貝梅村	426
三 保(穂)高村	426
四 保(穂)高町村	426
五 等々力村	426
六 等々力町村	426

第三節 池田組の村々

一 青木花見村
二 青木新田村
三 島新田村

536

民 俗 編

第一節 衣 生 活

一 衣料	561
二 仕事着	561
三 晴れ着	561
四 裁縫と保管	561

第二節 食 生 活

一 食料	584
二 貯藏	584

第三節 住まいとくらし	589
一 屋敷と家の向き	604
二 屋敷	605
第四節 生産・生業	603
一 稲作	600
二 麦作	594
三 畑作とその農具	589
四 養蚕	589
五 農馬	589
第五節 社会生活	658
一 本家・分家	658
二 親しい仲間	660
三 ムラの共有財産	661
四 ムラの役員	662
五 ムラの仕事	663
六 ムラのおきて	664
七 破産・災害への援助	665
第六節 信 仰	667
一 はじめに	668
二 村の神—産土神・氏神—	670
三 同族神・屋敷神・屋内神	674
四 講仲間の信仰	676
五 諸神々	677
六 寺と仏	684
七 俗信	688
第七節 人の一生	686
一 妊娠と育児	690
二 成人	690
三 喪葬	690
第八節 穂高町の年中行事	706
一	706
二	706
三	706
第九節 方言	710
一 歴史年表	731
二 執筆分担	731
あとがき	774
編纂委員名簿	777